

生活者としての外国人の地域社会への参加を促す日本語学習支援に関する研究：中国人結婚移住女性を事例として

張, 曉蘭

<https://hdl.handle.net/2324/1807129>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	張 曉蘭			
論文名	生活者としての外国人の地域社会への参加を促す日本語学習支援に関する研究 —中国人結婚移住女性を事例として—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	松永 典子
	副査	九州大学	准教授	志水 俊広
	副査	九州大学	准教授	李 相穆
	副査	九州大学	教授	郭 俊海
	副査	大阪大学	教授	西口 光一

論文審査の結果の要旨

本研究は、中国人結婚移住女性を事例とした、生活者としての外国人の地域社会への参加を促す日本語学習支援に関する基礎的研究である。

近年、生活者としての外国人の増加に伴い、彼らを対象とする調査研究が期待され、既に多くの研究が行われているものの、学習段階に応じた支援に関する研究、ことに日本語学習を地域社会へ参加する経路と関連付けて捉える視点に立つ研究が大きく欠落している。

そこで、本研究は日本語学習を地域社会へ参加する経路の一部と位置付け、学習における社会的要素に注目する社会文化的アプローチを理論的枠組みとして調査研究を行う。その観点からみると、結婚移住女性の社会参加には、「周辺の参加」「周辺の参加から十全的参加への移行」「十全的参加」という3つの段階があると捉えることができる。本研究では、それぞれの段階においてどのような日本語学習支援が有効かという問題意識の下、地域日本語教室における支援と学習者の自律学習、日本語学習と地域社会への参加との関係を明らかにする。

研究方法としては、福岡県における7つの地域日本語教室をフィールドとして、9名の中国人結婚移住女性に対する4年半にわたる縦断的調査を行った。また、本研究の枠組みと視点の有用性を確認するために、留学生の家族のための日本語教室でも調査を実施した。

考察の結果、下記の結論を導き出すことができた。結婚移住女性は日本語初学者の時期においては、地域社会に周辺的に参加しており、地域日本語教室では、支援者による足場作りが日本語学習を促進することが明らかになった。その後徐々に日本語が上達し、日本語を使って地域社会で活躍したいとの目標を設定するようになる。この段階においては支援者との相互学習、協議による学習活動の機会が増え、そうした学習ニーズの変化や学習スタイルの変化に対応した支援が必要となる。さらに、結婚移住女性は日本語能力の上達に伴い、地域社会において十全的に参加できるようになることが明らかになった。この段階においては、自律的な日本語学習が一段と進むが、一方では専門性を要する高度なニーズに対応する支援が新たに必要となる例があることも確認できた。その後、高度なニーズに対応する支援が必要でなくなり、徐々に自律学習へと移行するプロセスが繰り返されていくことが考えられる。

また、留学生の家族に対する調査からも、支援者による足場作りが日本語学習を促進すること、及び日本語学習を地域社会へ参加する経路の一部と捉える視点の有用性が確認されている。

以上のように、本論文は、社会文化的アプローチの観点から、生活者としての外国人の日本語学

習を地域社会へ参加する経路の一部と位置付け、学習段階に応じた支援のあり方を具体的に提示しており、この点は、従来の研究には見られなかった新たな知見を提供するものとなっている。また、調査対象者に寄り添った研究を丁寧に行い、地域社会参加という枠組みのもとに一貫性のある議論を展開した点は、調査委員により高く評価された点である。また、本研究が提示したこうした研究の枠組みと視点は、地域日本語支援という事象の実態やその価値をより有効に把握できることを示すものとして、学術的な意義が認められるものである。したがって、本論文は博士（学術）の学位に値すると論文調査委員全員一致により判断された。